



—東地中海地域ニュース—

イラン情勢(27)：閣僚信任投票結果、最高指導者西側諸国によるデモ扇動説を否定

研究員 山崎 和美

アフマディーネジャード大統領が国会に提出していた閣僚名簿の信任投票が3日実施され、2期目の政権が本格始動した。一方で、大統領が主張する西側諸国によるデモ扇動説を最高指導者が否定するなど、政権内の分裂状況が伺える。

重要閣僚ら18人信任 保健相に初の女性

イラン国会(定数290)は9月3日、アフマディーネジャード大統領が提出した2期目の内閣の信任審査を終えて投票を行い、閣僚候補計21人のうち、18人を承認した。この中で、婦人科医のマルズィーイェ・ヴァヒード・ダストジェルディーさんが保健相として信任され、1979年のイスラム革命後初の女性閣僚が誕生した。

承認された閣僚には、アルゼンチンのユダヤ系ビル爆破(94年)容疑で国際手配中のアフマド・ヴァヒーディー国防軍需相、マスウード・ミールカーゼミー石油相、モスタファー・モハンマド・ナッジャール内相ら大統領の支持基盤「革命防衛隊」出身者が少なくとも7人含まれる。ヴァヒーディー氏の国防軍需相就任は最高得票で承認された。同氏は国会演説で、対外的な脅威には対抗する考えを示しており、アルゼンチンなど国際社会の反発を招きそうだ。

信任審査をめぐっては、6月の大統領選挙の不正疑惑で改革派の批判にさらされたアフマディーネジャード大統領の人事に、身内の保守派からも独善的との反対表明が相次ぎ、審査は予定の3日間から2日延長された。不信任となったのは、ファーテム・アージュールー社会福祉相候補、スーサン・ケシャーヴァルズ教育相候補の女性2人と、電力相候補の3人。大統領のテヘラン市長時代からの側近で電力相に指名されたモハンマド・アリーアーバーディー氏については、1期目の副大統領(スポーツ担当)としての実績の乏しさが不信任の理由に挙げられた。

最高指導者ハーメネイー師：西側諸国によるデモ扇動を否定

アフマディーネジャード大統領をはじめとするイラン政府は6月の大統領選以降、米国や英国が内政に干渉していると主張してきた。8月23日には情報相が、抗議デモを扇動したのは西側諸国であり、在イラン英国大使館が混乱に果たした役割は大きいと述べた。抗議デモに参加したとして逮捕された約1000人のうち、フランスと英国の大使館職員を含む100人以上の公判が今月に入って開かれ、政府側は、英国や米国がデモを扇動していたことを多くの被告人が自供したと主張していた。

しかしながら、8月26日になって最高指導者ハーメネイー師は、大統領選後に国内で広がった大規模な抗議デモについて、「米英などの外国の影響によるものではない」「(デ

もの) 指導者が米英などの外国と手を組んだとして非難するつもりはない。その証拠がないからだ」「司法当局が噂を訴追の根拠として使うことがあってはならない」などと述べた。西側諸国が抗議デモを扇動したとして、今回の混乱状況の原因を外部の「敵」に帰するという方策を採ってきた大統領のやり方を最高指導者が否定した形となり、両者間の亀裂が垣間見える。

アフマディーネジャード大統領：ムーサヴィー元首相の訴追要求

アフマディーネジャード大統領は8月28日、大統領選に端を発した大規模な抗議デモについて「騒乱の背後にいた者を罰しなければならない」と述べ、名指しを避けながらも、選挙で敗退した改革派のムーサヴィー元首相らを訴追するよう求めた。テヘラン大で行われた金曜礼拝で演説した。

選挙後の抗議デモをめぐっては、改革派の元要人や在テヘランの英仏大使館の現地職員などが、デモに関与したとして訴追され公判中だが、選挙の不正を訴えてデモを呼び掛けたムーサヴィー氏らは訴追されていない。

大統領は、選挙は公正に行われたとして、デモの背後には欧米の内政干渉もあると主張した。自身の再選に「欧米は腹を立てている。怒っているのであれば怒り続け、その怒りで死になさい」と述べ、欧米を挑発した。

拘置所内死亡、暴行事件

大統領選後のデモで拘束された改革派の一般市民らが獄中でレイプされたとの疑惑をめぐり、国会調査委員会の議員の1人は8月27日、レイプがあったとの事実が確認されたと述べた。地元報道としてロイター通信が伝えた。

改革派のニュースサイト「ノウルーズ・ニュース」が伝えるところによれば、今年7月に少なくとも28人のデモ参加者の遺体が、無名のまま葬られた、という。8月30日付イラン労働通信によると、この疑惑に関して、テヘラン市当局は調査委員会を設置し、イラン議会も独自の委員会で調査することで合意した。改革派は、大統領選の騒乱による死者が政府発表の約30人の2倍以上と見ている。30日付ノウルーズ・ニュースと議会会派「イマームの道」の情報収集部門「Parleman News」が伝えたところによると、墓地の一角に埋められていた遺体の1つは、自宅からイラン当局に連行された女性だった。29日に墓地でこの女性の追悼礼拝が行われ、ムーサヴィー元首相も参列したという。

テヘラン市内のキャフリーザク拘置所で死亡した男性の死因が、暴行による重傷であったことが、検視報告書で明らかになった。メフル通信が8月31日、消息筋の発言として伝えた。キャフリーザク拘置所では、この男性を含む収容者2人が死亡した。最高指導者ハーメネイー師は7月、必要基準を満たしていないとの報告を受け、同拘置所の閉鎖を命令した、とされている。またこの問題の責任を取る形で、同拘置所の看守は解任され、逮捕されていた。

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799